久喜市議会

平成２５年１１月定例会

議員提出追加議案質疑通告

平成２５年１２月２４日（火）

質疑通告者一覧

【意見第７号　環太平洋戦略的経済連携協定（ＴＰＰ）交渉からの速やかな撤退を求める意見書】

通告第 １ 号　石川忠義　議員　……………………………………………　１

通告第 ２ 号　春山千明　議員　……………………………………………　１

通告第 ３ 号　園部茂雄　議員　……………………………………………　１

意見第７号	環太平洋戦略的経済連携協定（ＴＰＰ）交渉からの速やかな撤退を求める意見書

○　通告第１号　石川忠義　議員

（１）　ＴＰＰ交渉参加に反対を表明していた、主な団体の交渉参加後の動静をどのようにとらえているか。

（２）　意見書中、中段に「これらの動きは、日本が「聖域」とした５分野の関税について撤廃はさせない、そうなれば交渉から脱退するとしてきた国民への約束を破ることにつながるものです。」とあるが、意見書内容と辻褄が合わない。どう解釈しているのか。

○　通告第２号　春山千明　議員

（１）　意見書本文中、以下の点について具体的な説明を求めます。

ア　安倍首相が言ったとされる「日本は今や、ＴＰＰ交渉の中核的役割を担っている」とのことが、なぜ５品目を聖域としてきた姿勢を大きく転換させた事になるのかお伺いします。

イ　「関税撤廃を加工品や調製品に限定したとしても１０年から２０年の経過措置を経ての撤廃に向けた条件を課せられることはＴＰＰの原則からも明らかで、コメに限らず、重要５品目すべてに適用されることになる」という根拠をお伺いします。

（２）　１２月７日からシンガポールで開かれたＴＰＰの閣僚会議において日本は重要５品目等の聖域は１ミリも譲らないとの姿勢で臨み、その結果交渉は平行線となり年内の妥結には結びつきませんでした。日本政府の現在の動向と今回の意見書の内容はそぐわない部分があると考えますが、いかがかお伺いします。

（３）　ＪＡ全中、及び全国農業会議所など、実際の農業従事者の方々は「ＴＰＰに関する決議を実現するべき」との考え方で、これは今のＴＰＰに関する状況から的確に判断されたことだと考えます。この意見書はそうした現状を全く無視した、非現実的で無理がある内容となっていると考えますが、いかがかお伺いします。

○　通告第３号　園部茂雄　議員

（１）　１２／７から１２／１０にかけてシンガポールにおいてＴＰＰ協定交渉会合が開催され、合意に至らず交渉は年越しとなり、日米間の交渉では、１ｍｍも引かない姿勢を堅持して来ました。

日本政府は関係国の中では、最後に加入を承認して頂き、協議を進めている中で、交渉から速やかに撤退を表明した場合の国際社会への影響は計り知れないと思うが、どの様に考えるか伺う。